



学校だより



9月号

令和8年8月31日
横浜市立善部小学校
校長 朝川 健太郎

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/zenbu/>

環境をつくる

校長 朝川 健太郎

今年の夏休みは、関東地方では猛暑日が続いた昨年までと比べ、比較的過ごしやすい日が多く見られました。一方、熊本では大規模な地震、千葉県では豪雨災害が発生し、自然の脅威を改めて感じる夏でもありました。お亡くなりになった方に心よりお悔やみ申し上げるとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、夏休みが明け、子どもたちはそれぞれに充実した時間を過ごし、ひと回り成長した様子で学校に戻ってきました。久しぶりに登校した子どもたちの顔には、家族や友達との思い出、さまざまな体験を通して得た自信や達成感が感じられます。学校には再び元気なあいさつや笑顔があふれ、活気が戻ってきました。これから始まる学校生活においても、一人ひとりが自分のよさを発揮しながら、仲間とともに学びを深め、実り多い日々を過ごしてほしいと願っています。

8月15日(土)に瀬谷区民文化センターあじさいプラザで開催された、映画「ワタシ、発酵します!」の上映会に参加しました。この映画は、本校の保護者である松田恒代さんが脚本・監督を務め、香川県の醤油蔵を舞台に制作された作品です。物語は、失恋を機に30代半ばで母の実家がある香川県東かがわ市に戻ってきた女性と、家事育児に奔走しながら醤油蔵で醤油見習いとして働く従姉を中心に描かれています。異なる生き方を選んだ2人の女性が、それぞれの「今」を懸命に生きる姿を醤油づくりにおける「発酵」と重ね合わせながら丁寧に描いた作品でした。私自身、香川県出身ということもあり、街の風景や方言で語られるせりふの数々を懐かしく拝見しました。

その中で、校長として心に響いた言葉があります。それは、麴の様子を見ていた職人が語った「俺たちは環境を作るだけだからなあ」という一言です。映画の中では、麴が発酵するための環境を整えるという意味で使われていましたが、私は学校教育にも通じるものがあると感じました。子どもたちは、日々成長しています。それは、大人が成長させているというよりも、子どもたち自身がいろいろなことを見て、感じて、経験しながら、自分の力で成長しているのだと思います。しかし、その成長には環境が大きく影響します。私たち大人の役目は、子どもたちがより豊かに成長していくための環境を整えることなのではないかと、この言葉を聞きながら改めて考えさせられました。9月19日(土)には大和市のシリウスでも上映会が開催されるとのことですので、興味のある方は足を運んでみてはいかがでしょうか。

10月には ZSF(運動会)、11月には全校遠足が予定されています。これらの大きな行事も子どもたちの成長のために学校が用意する「環境」の一つです。また、日々の授業においても、知識を一方的に教え込むのではなく、子どもたちが自ら気づき、考え、学ぶことのできる「学習環境」づくりを大切にしています。善部小学校ではこれからも子どもたちが自ら成長していくための環境づくりに努めてまいります。引き続き、学校教育へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

